

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書

研究代表者 所属・職名 英語・准教授

氏 名 橋本大樹

研究期間 令和6年度～令和7年度

研究プロジェクトの名称	英語発音指導のための ICT 教育プログラムの構築
研究プロジェクトの概要	<p>英語と日本語の発音は様々な面で異なる。例えば英語に存在する /ɹ/ や /ɑ/ という音素は日本語には存在しない。また同じ発音に思える音であっても、英語と日本語ではその音声的詳細が異なる場合もある。一例として、英語の /s/ と日本語の /s/ はスペクトルピークが異なっていることが知られている。日本語話者が英語らしい発音を身に付けるためには、こうした英語と日本語の発音の違いを克服する必要がある。日本の小中学校では発音指導が成功しているとは言えず、多くの日本人英語学習者が英語話者との意思疎通に困難を感じている。</p> <p>本研究の目的は、ICT 教育プログラムを構築することで英語らしい発音を身に付ける方法を提案することにある。私の研究室では、英語の発音指導を行うための ICT 教育プログラムをゼミ生と共に構築してきた。本研究ではこれらの知見を軸としながら、英語の発音指導プログラムの更なる発展を目指す。</p>
研究成果の概要	<p>本研究では 39 名の大学生に対して、シャドーイングの発音練習プログラムを実施した。このプログラムは JavaScript を用いて構築した。まずベースラインで単語を読み上げてもらい、その後シャドーイングを行った。プログラムの最後には音色を聞き分ける聴覚試験も行った。</p> <p>ベースラインよりもシャドーイングの方が、母語話者の発音に近づくことがわかった。またこの傾向は、聴覚試験で音色を細かく聞き分けられる学習者で顕著に観察された。</p> <p>聴覚能力と発音練習の効果の関係は、理論的示唆がある。我々が音声を模倣する時、調音器官の運動能力だけではなく、聴解に関わる認知能力が重要な役割を果たしていることを示唆する。発音指導の際には、個々の聴覚能力に合わせた指導が求められることがわかった。</p>
研究成果の発表状況 (※今後の予定も含む。)	<p>本研究内容は国際誌に論文を投稿予定である。</p> <p>また本研究で明らかになったことの一部は、以下の書籍でも言及している：</p> <p>橋本大樹 (2026) 『英語音声学を紐解く—音声学の基礎から理論まで—』 東京：開拓社。</p>
学校現場や授業への研究成果の還元について	「英語音声学」の授業で、本研究で得た知見を共有する。